巻頭特集

NPO法人まちかどサポートセンター

誰もが輝きながら生活できる地域社会を目指して

心に病を抱えている人が、社会の一員として尊重されながら地域に貢献できるよう、さまざまな支援をしている

NPO法人まちかどサポートセンター。

発足からおよそ15年が経過したいま、活動を振り返り、今後にかける思いを聞きました。

障害がある人が地域で暮らせるよう作業所や共同生活の場を運営

精神に障がいがある人の生活を支援する「地域活動支援センターかもめくらぶ」。うつや引きこもりなど心に病がある人の就労を支援する「NPOすずめくらぶ」など、港区内で複数の事業所を運営しているNPO法人まちかどサポートセンター。精神障がい者の家族の集合体として1997年に誕生した「かもめ会」の活動を引き継ぎ、2001年4月に発足しました。

最初に取り組んだのは、後に「地域活動支援センター かもめくらぶ」となる小規模作業所「NPOかもめくらぶ」の設立です。「設立の1年ほど前から、『精神に疾患がある方が定期的に通える施設をつくれないか』と港保健所から相談を受けていました」と話すのは、理事長である精神保健福祉士・社会福祉士の山田武司さん。2003年に「NPOすずめくらぶ」を設立すると、利用者の家族の高齢化が進む課題に直面します。そこで、「通う場所だけでなく、生活するための住まいも必要」という現場からの声を受けて、共同生活介護と援助を目的とした「まちかどのいえ」が2007年に誕生しました。

仲間づくりや居場所の提供就労支援など多様な支援活動

現在、かもめくらぶに登録しているのは30人ほど。1日あたり約10人が通所しています。映画鑑賞会や外部からゲストを招いての出前トークなど、日替わりで様々なプログラムを用意。手芸部の部活動も盛んで、アクセサリーなどを手づくりして毎月2回、区役所で利用者が販売しています。近隣の公園で高齢者や子どもと一緒に花の植え替えを手伝うこともあり、地域との交流も積極的に進めています。

キャプション○○○